

情報処理学会東北支部 平成24年度支部総会(支部報告会)

日時：平成24年5月9日(水) 12:30 ~ 14:00

場所：東北大学 工学部 電子情報システム・応物系 103 講義室

住所：〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-05

次第

- I 開会
- II 支部長挨拶
- III 報告
 - (表彰)
 - 1. 平成23年度東北支部学生奨励賞の選考結果報告 資料1
 - 2. 平成23年度東北支部奨励賞の選考結果報告 資料2
 - 3. 第7回東北支部野口研究奨励賞の選考結果報告 資料3
 - 4. 平成23年度東北支部奨励賞 贈呈
 - 5. 第7回東北支部野口研究奨励賞 贈呈
 - (報告事項)
 - 1. 支部運営規約の制定について 資料4
 - 2. 平成23年度活動報告について 資料5
 - 3. 平成23年度決算について 資料6
 - 4. 平成24年度役員改選について 資料7, 8, 9
 - 5. 平成24年度事業計画について 資料10
 - 6. 平成24年度予算について 資料11
 - 7. 東北支部役員の旅費・謝金等の取り扱い規程の制定について 資料12
 - 8. 支部からの推薦論文について 資料13, 14
 - 9. 支部表彰規定改定について 資料15
 - 10. その他
 - 1. 平成24年度電気関係学会東北支部連合大会について 資料16
 - 2. 情報処理学会第75回全国大会開催について 資料17
 - (学会概況報告)
 - 1. 学会概況報告 資料18
- IV 閉会

情報処理学会東北支部 平成23年度 学生奨励賞 受賞者

趣旨 情報処理分野を学ぶ東北地区の学生が、より一層、情報処理分野の勉学に勤しむように奨励する。

対象 情報関連学科を持つ大学または高専の卒業年度生で、成績優秀な学生。

(学生奨励賞に関する要項より要約・抜粋)

情報関連学科を持つ主要大学等 13 校に成績優秀者の推薦を依頼したところ、下記 13 名の推薦があった。選考委員会においてメール審議を行い、推薦のあった全ての学生に学生奨励賞を授与することと決定した。

氏名	所属
一戸 康平	弘前大学理工学部電子情報工学科
工藤 佑介	八戸工業大学工学部システム情報工学科
比佐 光一	秋田大学工学資源学部情報工学科
田澤 遥香	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科
小田島 瑞希	岩手県立大学ソフトウェア情報学部
熊田 雄紀	山形大学工学部情報科学科
伊藤 大介	鶴岡工業高等専門学校制御情報工学科
横山 敬士	東北工業大学工学部情報通信工学科
佐々木 大輔	仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻
佐藤 雄貴	会津大学コンピュータ理工学部コンピュータ理工学科
吉田 学	日本大学工学部情報工学科
安齋 洋行	福島大学理工学群共生システム理工学類
上埜 かおり	東北大学工学部情報知能システム総合学科

情報処理学会東北支部 平成23年度 支部奨励賞 受賞者

趣旨 情報処理に関する学問，技術の奨励のため，有為と認められる新進の科学者
または技術者に贈呈する。

対象 支部連合大会および研究会に発表した者で，大学の学部卒業後10年未満の者。

(表彰規定より要約・抜粋)

平成23年8月25日，26日に開催された電気関係学会東北支部連合大会と，平成23年1月～12月に開催された研究会(計6回)のそれぞれにおいて，座長より合計8件(連合大会より4件，研究会より4件)の推薦があった。

それぞれの推薦論文について事前に有識者による査読を行い，その結果などをもとに平成24年4月19日に開催された選考委員会，および平成24年4月27日に開催された役員会で以下の受賞者を決定した。

東北支部連合大会

- 石井 純平(東北大学)
「SIFTとPOCを用いた高精度3次元復元の検討」
- キム ヨンクン(東北大学)
「不揮発性可変抵抗素子を用いたLSIパラメータばらつき最小化アルゴリズムの検討」

研究会

- 溝江 真也(会津大学)
「Reconstructing 3D Land Surface from a Sequence of Aerial Images」
- 夏井 雄介(秋田大学)
「NOAA-AVHRR データを対象としたランレングス行列による地上基準点の自動抽出に関する検討」
- 村上 龍希(秋田大学)
「顔領域における白飛びに着目した人物画像の印象度判定に関する検討」

情報処理学会東北支部 第7回野口研究奨励賞 受賞者

趣旨 優秀な学術論文を出版した東北支部会員の若手研究者に対して賞を授与し、より一層の情報処理分野に関する研究開発を奨励する。

対象 過去5年程度以内において、学術雑誌・国際会議予稿集に掲載された論文の主要な著者で、35歳以下の若手研究者。

(野口研究奨励賞の要項より要約・抜粋)

第7回 野口研究奨励賞に2件の応募があり、平成24年4月19日に開催された選考委員会および平成24年4月27日に開催された役員会で慎重に審議した結果、以下の1名を受賞者とすることを決定した。

受賞者 八巻 俊輔 (東北大学大学院工学研究科・助教)

対象論文 “Derivation of the Class of Digital Filters With All Second-Order Modes Equal,”
Shunsuke Yamaki, Masahide Abe, and Masayuki Kawamata,
IEEE Transactions on Signal Processing,
Vol.59, No.11, pp.5236-5242, November 2011.

情報処理学会東北支部運営規約

(設置)

第1条 情報処理学会定款第52条により、東北地域（青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県）に東北支部を置く。

(目的・事業)

第2条 東北支部（以下「支部」という）は、東北地域に在住または勤務する会員（以下「東北支部会員」という）の相互協力により、本会の目的達成のため、定款第4条に掲げる範囲において必要な事業を行う。

(支部の運営組織・構成)

第3条 支部に、次の東北支部運営委員（以下「支部運営委員」）を置く。

(1) 支部長：1名 (2) 支部幹事：6名 (3) 支部委員：若干名

2. 支部長および支部幹事は東北支部正会員の内から互選し、理事会の承認を得るものとする。支部委員は、主として東北支部正会員および賛助会員の内から理事会の承認を得て支部長が委嘱する。支部長の任期は2年とする。支部幹事の任期は2年とし、毎年約半数を改選する。ただし、再任を妨げない。支部委員の任期は2年とし、再任を妨げない。支部運営委員に欠員が生じた場合は、支部幹事会で後任を選任することができる。ただし、その任期は前任者の残余の期間とする。
3. 支部長は、支部を代表し、統括する。また、必要の都度、支部運営委員で組織する東北支部運営委員会（以下「支部運営委員会」）、支部長および支部幹事で組織する幹事会を開催し、支部の円滑な運営業務が行えるよう、運営に関して必要な事項を審議する。
4. 支部幹事および支部委員は、支部長を補佐し、支部の業務を遂行する。

(支部の運営)

第4条 支部の運営は、理事会で承認された年度計画および予算により行う。

2. 支部運営委員会は、毎年指定された時期までに翌年度の事業計画案、予算案および事業報告を作成し、理事会に提出するものとする。
3. 支部運営委員会は、毎年5月に東北支部報告会を開催し、東北支部会員に対して支部の活動状況（諸事業の報告・計画、収支の状況、支部運営委員の構成等）を報告するものとする。

(雑則)

第5条 支部の業務を処理するため、事務局を設け、事務局に事務職員、その他必要な職員をおくことができる。

第6条 本規約に定めるもののほか、支部の運営に関する必要な事項は別に定める。

(附則)

第7条 本規約は、理事会決議の日から発効し、2012年4月1日から施行する。

第8条 本規約の改廃は理事会の決議により行う。

第9条 本規約の施行により、従来の「東北支部規約」は廃止する。

2. 経過措置として、2012年3月31日現在「東北支部規約」に規定される「支部評議員」および「支部総会」の呼称は、運営に支障のない範囲で2012年度に限り利用可能とする。

(支部の設置・廃止)

第22条 支部の設置または廃止は、理事会の決議により行う。

(支部の事業)

第23条 支部は、その地域に在住する会員の相互協力によって、本会の目的達成のために必要な事業を行う。

(支部の地域)

第24条 支部の地域は、次の通りとする。

(※掲載略)

(支部運営規約)

第25条 支部は、次の事項を含む支部運営規約を理事会に提案し、承認を得なければならない。

- | | | |
|--------|----------------------------|--------|
| (1) 名称 | (2) 地域と所属する都道府県名 (前24条に同じ) | |
| (3) 事業 | (4) 運営組織・構成 | (5) 運営 |

(支部の運営組織・構成)

第26条 支部には次の支部運営委員を置く。支部運営委員の選出方法および任期は、支部運営規約に別に定める。

- (1) 支部長：1名 (2) 支部幹事：若干名 (3) 支部委員：若干名
2. 支部長は、必要の都度、支部運営委員会を開催し、支部の円滑な運営業務を統括する。
 3. 支部幹事および支部委員は、支部長を補佐し、支部の業務を遂行する。

(支部の経費)

第27条 支部の経費は、支部への予算配分額および支部において取得した資産により支弁するものとする。

2. 支部への予算配分額の算定方法は別に定める。

(支部の事業計画および報告)

第28条 支部は、毎年指定された時期までに翌年度の事業計画案、予算案および当年度の事業報告を、理事会に提出しなければならない。

(支部長会議) 第29条 支部長会議は、会長が適宜招集するものとする。

附則

3. 第25条、26条、28条の改訂は、理事会決議の日から発効し、2012年4月1日から施行する。

情報処理学会東北支部 平成 23 年度活動報告

1 支部総会

日程 : 平成 23 年 5 月 18 日 (水)
会場 : 東北大学工学部 電子情報システム・応物系 2 号館 204 会議室
参加者 : 158 名 (委任状 138 名を含む)

2 役員会等

2.1 第 1 回 幹事会

日時 : 平成 24 年 4 月 19 日 (木) 12:30 ~ 14:00
会場 : 東北大学電気通信研究所 2 号館 4 階 小会議室
議題 : 1. 平成 24 年度支部役員改選について
2. 支部規約等改正について
3. 平成 23 年度支部奨励賞, 支部学生奨励賞,
第 7 回 野口研究奨励賞について
4. 平成 23 年度活動報告について
5. 平成 24 年度活動計画について
6. 平成 23 年度決算について
7. 平成 24 年度予算について
8. 支部からの推薦論文について
9. その他

2.2 第1回 役員会

- 日時 : 平成24年4月27日(金) 16:00~17:00
会場 : 東北大学電気通信研究所 2号館 4階 大会議室
議題 :
- 1 支部役員改選結果報告
 - 2 支部長会議, 役員検討会報告
 - 3 支部規約等改正について
 - 4 支部学生奨励賞の受賞者の報告
 - 5 支部奨励賞の受賞者の決定について
 - 6 第7回 野口研究奨励賞の受賞者の決定について
 - 7 平成23年度活動報告について
 - 8 平成24年度活動計画について
 - 9 平成23年度決算について
 - 10 平成24年度予算について
 - 11 支部からの推薦論文について
 - 12 平成24年度支部総会(支部報告会)について
 - 13 平成24年度電気関係学会東北支部連合大会について
 - 14 その他

3 事業計画に基づく事業(行事、表彰等)

3.1 電気関係学会東北支部連合大会

- 日程 : 平成23年8月25日(木), 26日(金)
会場 : 東北学院大学
一般講演 : 312件
参加者数 : 述べ621名
特別講演 :
- 日時 : 平成22年8月25日(木) 15:30~17:00
場所 : 東北学院大学 工学部 工学基礎教育センター 012番教室
講師 : 進藤 秋輝 氏 (宮城県東北歴史博物館 前館長)
演題 : 「古代東北統治の拠点「多賀城」」
参加者数 : 約100名

3.2 研究講演会

今年度は4回開催した。

- 第359回研究講演会

- 日程 : 平成 23 年 5 月 18 日 (水)
- 会場 : 東北大学工学部電子情報システム・応物系 101 大講義室
- 講演者 : 小松 敏秀 氏 ((株) 日立ソリューションズ 取締役専務執行役員)
- 講演題目 : 日本における情報・通信システムの変遷と今後
ー金融機関システムを事例にー
- 参加者数 : 260 名
- 第 360 回研究講演会

日程 : 平成 23 年 10 月 25 日 (火)

会場 : 秋田大学工学資源学部 5 号館 (情報工学科) 101 講義室

講演者 : 遠藤 八郎 氏 (ロジガード株式会社 代表取締役 会長)

講演題目 : 物流 IT ロジガードのクラウド事業について
～ IT 会社の経営 30 年間で振り返り～

参加者数 : 89 名
 - 第 361 回研究講演会

日程 : 平成 23 年 12 月 9 日 (金)

会場 : 山形大学工学部 4 号館 117 教室

講演者 : 清水 俊幸 (富士通株式会社 次世代テクニカルコンピューティング
開発本部システム開発統括部第二開発部 部長)

講演題目 : スーパーコンピュータ「京」のアーキテクチャ

参加者数 : 48 名
 - 第 362 回研究講演会

日程 : 平成 23 年 12 月 22 日 (木)

会場 : 秋田大学工学資源学部 5 号館 (情報工学科) 101 講義室

【講演 1】

講演者 : 松本 奈緒 氏
(秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座 准教授)

講演題目 : 秋田の盆踊りの学習におけるデジタルコンテンツを用いた学習支援
の効果と限界
- モーションキャプチャ技術を応用した学習支援システム作成の試み -

【講演 2】

講演者 : 曾我 麻佐子 氏 (龍谷大学理工学部情報メディア学科 講師)

講演題目 : 舞踊のモーションキャプチャデータを用いた振付創作と舞台演出

参加者数 : 81 名

3.3 研究会

今年度は 8 回開催した。

- 平成 23 度 第 1 回研究会

- 日程 : 平成 23 年 9 月 26 日 (月) ~ 27 日 (火)
会場 : 弘前大学理工学部 10 番講義室
発表件数 : 28 件
参加者数 : 60 名
- 平成 23 年度 第 2 回研究会
日程 : 平成 23 年 12 月 5 日 (月) ~ 6 日 (火)
会場 : 秋田大学産学連携推進機構 1F 会議室
発表件数 : 21 件
参加者数 : 77 名
 - 平成 23 年度 第 3 回研究会
日程 : 平成 23 年 12 月 12 日 (月)
会場 : 八戸工業大学 システム情報工学専門棟 I208 教室
発表件数 : 11 件
参加者数 : 34 名
 - 平成 23 年度 第 4 回研究会
日程 : 平成 24 年 1 月 21 日 (土)
会場 : 岩手大学工学部 4 号館 (情報システム工学コース棟) 1 階 106 室
発表件数 : 16 件
参加者数 : 31 名
 - 平成 23 年度 第 5 回研究会
日程 : 平成 24 年 1 月 28 日 (土)
会場 : 日本大学工学部 54 号館 5412 教室
発表件数 : 15 件
参加者数 : 26 名
 - 平成 23 年度 第 6 回研究会
日程 : 平成 24 年 2 月 14 日 (火)
会場 : 東北学院大学 泉キャンパス 2 号館 2 階 229 教室
発表件数 : 22 件
参加者数 : 96 名
 - 平成 23 年度 第 7 回研究会
日程 : 平成 24 年 3 月 2 日 (金)
会場 : 東北工業大学八木山キャンパス 9 号館 914 教室
発表件数 : 21 件
参加者数 : 54 名
 - 平成 23 年度 第 8 回研究会
日程 : 平成 24 年 3 月 9 日 (金)
会場 : 山形大学工学部 (4-115 教室 (受付)、4-111 教室 (A 会場)、
4-112 教室 (B 会場))
発表件数 : 43 件
参加者数 : 74 名

3.4 表彰

3.4.1 支部学生奨励賞

以下の13名が受賞した。

氏名	所属
一戸 康平	弘前大学工学部電子情報工学科
工藤 佑介	八戸工業大学工学部システム情報工学科
比佐 光一	秋田大学工学資源学部情報工学科
田澤 遥香	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科
小田島 瑞希	岩手県立大学ソフトウェア情報学部
熊田 雄紀	山形大学工学部情報科学科
伊藤 大介	鶴岡工業高等専門学校制御情報工学科
横山 敬士	東北工業大学工学部情報通信工学科
佐々木 大輔	仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻
佐藤 雄貴	会津大学コンピュータ理工学部コンピュータ理工学科
吉田 学	日本大学工学部情報工学科
安齋 洋行	福島大学理工学群共生システム理工学類
上埜 かおり	東北大学工学部情報知能システム総合学科

3.4.2 支部奨励賞

以下の5名が受賞した。

- 東北支部連合大会
 - － 石井 純平（東北大学）
「SIFT と POC を用いた高精度 3 次元復元の検討」
 - － キム ヨンクン（東北大学）
「不揮発性可変抵抗素子を用いた LSI パラメータばらつき最小化アルゴリズムの検討」
- 研究会
 - － 溝江 真也（会津大学）
「Reconstructing 3D Land Surface from a Sequence of Aerial Images」
 - － 夏井 雄介（秋田大学）
「NOAA-AVHRR データを対象としたランレングス行列による地上基準点の自動抽出に関する検討」
 - － 村上 龍希（秋田大学）
「顔領域における白飛びに着目した人物画像の印象度判定に関する検討」

3.4.3 野口研究奨励賞

以下の1名が受賞した。

- 八巻 俊輔（北大学大学院工学研究科・助教）
「Derivation of the Class of Digital Filters With All Second-Order Modes Equal」

3.5 支部だよりの発行

第228号を発行。

4 その他特記事項等

4.1 後援

- 中学生のためのコンピュータ・グラフィクス講座
日時：平成23年12月26日，27日
場所：東北大学サイバーサイエンスセンター 本館
主催：東北大学 サイバーサイエンスセンター

4.2 協賛

- 子ども科学キャンパス
日時：平成23年7月27日，28日，10月11日，12日
場所：東北大学創造工学センター「発明工房」
主催：東北大学，仙台市教育委員会
- 東北大学 情報科学研究科 平成24年度研究科シンポジウム 基調講演
日時：平成24年4月26日
場所：東北大学・川内キャンパス・萩ホール
主催：東北大学 情報科学研究科

情報処理学会東北支部 平成23年度決算

収入	予算	決算	決算－予算
本部からの繰入相当額	1,740,000	1,740,000	0
支部交付金相当額	1,740,000	1,740,000	0
補助金収入	50,000	50,000	0
寄付金	50,000	50,000	0
雑収入（利息等）	1,000	4,992,178	4,991,178
利息など	1,000	34	1,000
H22年度連合大会収入	0	4,992,144	
当期収入合計（A）	1,791,000	6,782,178	4,991,178
前期からの繰越金	2,235,999	2,235,999	0
収入合計（B）	4,026,999	9,018,177	4,991,178

支出	予算	決算	予算－決算
事業費	1,433,000	6,208,578	-4,775,578
講演会	480,000	137,536	342,464
研究会	240,000	360,480	-120,480
支部表彰	303,000	329,451	-26,451
連合大会（H23分担金）	310,000	310,000	0
連合大会（H22運営費）	0	5,021,103	-5,021,103
セミナー支援	50,000	50,000	0
雑費	50,000	8	49,992
管理費	720,000	608,270	111,730
役員会・幹事会	120,000	104,620	15,380
総会	170,000	93,650	76,350
広報・アルバイト	420,000	410,000	10,000
雑費	10,000	0	10,000
当期支出合計（C）	2,153,000	6,816,848	-4,663,848

収支	予算	決算	決算－予算
当期収支差額（A-C）	-362,000	-34,670	327,330
次期への繰越金（B-C）	1,873,999	2,201,329	327,330

平成23年度 情報処理学会東北支部 役員名簿

2012.3.31 現在

役職		氏名	前任者	所属	備考
支部長		木下 哲男	亀山 充隆	東北大学電気通信研究所	
庶務幹事	新	関口 理恵	秋山 正史	NECソフトウェア東北	
		菅沼 拓夫	福士 将	東北大学サイバーサイエンスセンター	
会計幹事		山本 敏孝	再任	日本電気東北支社公共第一営業部	
	新	佐野健太郎	住井 英二郎	東北大学大学院情報科学研究科	
広報幹事	新	庄司 貞雄	再任	(株)日立東日本ソリューションズ	
		滝沢 寛之	阿部 亨	東北大学大学院情報科学研究科	
評議員		亀山 充隆	牧野 正三	東北大学大学院情報科学研究科	
		福士 将		東北大学大学院情報科学研究科	
	新	住井 英二郎	本間 尚文	東北大学大学院情報科学研究科	前会計幹事枠
		阿部 亨	北形 元	東北大学サイバーサイエンスセンター	
		斎藤 稔	再任	弘前大学大学院理工学研究科電子情報システム工学専攻	
	新	山口 広行	再任	八戸工業大学システム情報工学科	
		景山 陽一	再任	秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻	
		猿田 和樹	小澤 一文	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科	
	新	平山 貴司	今野 晃市	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科	
		布川 博士	再任	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	
		平中 幸雄	後藤 源助	山形大学大学院理工学研究科	
	新	水木 敬明	再任	東北大学サイバーサイエンスセンター	
	新	鈴木健一	小島 正美	東北工業大学情報通信工学科	小島先生ご退職により交代
		岩本 正敏	再任	東北学院大学工学部	
	新	速水健一	安藤 敏彦	仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻	
		成瀬 継太郎	齋藤 寛	会津大学コンピュータ理工学部	
		岩井 俊哉	武内 惇	日本大学工学部情報工学科	
		高橋 裕美	斉藤 文雄	富士通株式会社東北営業本部	
		只野 徹	再任	(株)富士通東北システムズ 経営企画室	
		富樫 敦		宮城大学事業構想学部デザイン情報学科	

掲載省略

平成24年度 情報処理学会東北支部 役員(運営委員) 名簿

2012.4.19 現在

役職		氏名	前任者	所属	備考
支部長	新	小林 広明	木下 哲男	東北大学サイバーサイエンスセンター	
庶務幹事		関口 理恵	秋山 正史	NECソフトウェア東北	
	新	滝沢 寛之	菅沼 拓夫	東北大学大学院情報科学研究科	
会計幹事	新	山本 敏孝	再任	日本電気東北支社公共第一営業部	
		佐野健太郎	住井 英二郎	東北大学大学院情報科学研究科	
広報幹事		庄司 貞雄	再任	(株)日立東日本ソリューションズ	
	新	岡崎 直観	滝沢 寛之	東北大学大学院情報科学研究科	
評議員 (委員)	新	木下 哲男	亀山 充隆	東北大学電気通信研究所	前支部長枠
	新	菅沼 拓夫	福士 将	東北大学サイバーサイエンスセンター	前庶務幹事枠
		住井 英二郎	本間 尚文	東北大学大学院情報科学研究科	前会計幹事枠
	新	菊地 正衡		(株)NTTデータ東北	
	新	斎藤 稔	再任	弘前大学大学院理工学研究科電子情報システム工学専攻	
		山口 広行	再任	八戸工業大学システム情報工学科	
	新	景山 陽一	再任	秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻	
	新	猿田 和樹	再任	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科	
		平山 貴司	今野 晃市	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科	
	新	布川 博士	再任	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	
	新	横山 晶一	平中 幸雄	山形大学大学院理工学研究科	
		水木 敬明	再任	東北大学サイバーサイエンスセンター	
	新	鈴木 健一	再任	東北工業大学工学部情報通信工学科	
	新	岩本 正敏	再任	東北学院大学工学部	
		速水 健一	安藤 敏彦	仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻	
	新	成瀬 継太郎	再任	会津大学コンピュータ理工学部	
	新	山本 哲男	岩井 俊哉	日本大学工学部情報工学科	
新	大湯 英和	再任	富士通株式会社東北支社 公共営業部		
新	阿部 伸也	只野 徹	(株)富士通システムズ・イースト 東北支社		
新	富樫 敦	再任	宮城大学事業構想学部デザイン情報学科		

平成 24 年度活動計画

1 支部総会 (支部報告会)

日程 : 平成 24 年 5 月 9 日 (水) 12:30 ~ 14:00

会場 : 東北大学工学部電子情報システム・応物系 103 講義室

2 役員会等

役員会 (運営委員会) : 1 ~ 2 回程度開催予定

幹事会 : 1 ~ 2 回程度開催予定

3 各種事業 (行事、表彰等)

研究講演会 : 6 回程度開催予定

研究会 : 8 回程度開催予定

支部奨励賞 : 5 名程度表彰予定

支部学生奨励賞 : 10 名程度表彰予定

支部野口研究奨励賞 : 1 名程度表彰予定

後援 : 中学生のためのコンピュータ・グラフィクス講座

協賛 : 子ども科学キャンパス

収入	平成23年度		平成24年度
	予算	決算	予算
本部からの繰入相当額	1,740,000	1,740,000	1,815,000
支部交付金相当額	1,740,000	1,740,000	1,815,000
補助金収入	50,000	50,000	50,000
寄付金	50,000	50,000	50,000
雑収入	1,000	4,992,178	1,000
利息など	1,000	34	1,000
H22年度連合大会収入	0	4,992,144	
当期収入合計 (A)	1,791,000	6,782,178	1,866,000
前期からの繰越金	2,235,999	2,235,999	2,201,329
収入合計 (B)	4,026,999	9,018,177	4,067,329

支出	平成23年度		平成24年度
	予算	決算	予算
事業費	1,433,000	6,208,578	1,243,000
講演会	480,000	137,536	300,000
研究会	240,000	360,480	280,000
支部表彰	303,000	329,451	303,000
連合大会 (H23分担金)	310,000	310,000	310,000
連合大会 (H22運営費)	0	5,021,103	0
セミナー支援	50,000	50,000	50,000
雑費	50,000	8	0
管理費	720,000	608,270	623,000
役員会・幹事会	120,000	104,620	120,000
総会	170,000	93,650	180,000
広報・アルバイト	420,000	410,000	313,000
雑費	10,000	0	10,000
当期支出合計 (C)	2,153,000	6,816,848	1,866,000

収支	平成23年度		平成24年度
	予算	決算	予算
当期収支差額 (A-C)	-362,000	-34,670	0
次期への繰越金 (B-C)	1,873,999	2,201,329	2,201,329

東北支部役員の旅費・謝金等の取り扱い規程

本規程は、本部「学会役員等の旅費規程」に基づき、東北支部役員^(※注)の旅費・謝金等の取り扱いについて定める。

※注) 支部役員とは、支部長、幹事、支部研究会主査、評議員、またはそれらの代理の者を指す。

1. 本会支部活動における旅費・謝金等の支給の原則

東北支部役員による本会支部活動は基本的にボランティアで行うものとし、日当、原稿料、講演謝金、その他の名称を問わず、役務の提供等による対価・報酬は支給しない。

但し、旅費については、次項「旅費の支給の範囲」に限り支給する。

2. 旅費の支給の範囲

支給する旅費の範囲は以下の通りとする。

但し、他から旅費の支給を受ける者には適用しない。

a) 研究講演会・研究会など、東北支部のイベント運営に直接関わる場合にのみ、それぞれに実費交通費を支給することができる。

例) 当日のイベント運営、会場の下見などがこれに該当する。

b) 幹事会・役員会など、支部役員の職務として出席する会議・打合せ等に関わる旅費は原則として支給しない。

但し、例外として、企業所属者以外の場合に限り、参加者の勤務地～用務地までの距離が50km 以上の場合は、実費交通費を支給することができる。

3. 関連学会との共催イベントの運営に関わる取り扱いは、関連学会との合意により別に定める。

附則


本規程の改廃は、理事会の決議により行う。

2012年4月27日
情報処理学会東北支部役員会

情報処理学会東北支部からの推薦論文について

平成23年度より、以下の方法にて、推薦論文制度に基づく論文の推薦を行う。

1. 原則として、支部奨励賞候補論文のうち、支部研究会からの候補論文を対象とする。
2. 日本語論文を2編以内、および英語論文を2編以内で推薦する。
3. 支部奨励賞選考における採点結果に基づき、上位から順に、推薦希望の有無について著者に問い合わせ、希望する場合は2.の件数の範囲内で推薦する。
4. 推薦者は支部長とする。また、当該研究会の幹事を共同推薦者とする。
5. 推薦論文が決まり次第、6月1日以降に推薦書を提出する。


 IPSJ Journal
 論文誌ジャーナル

[ホーム](#) > [論文誌](#) > [論文誌ジャーナル](#) > [推薦論文](#)

推薦論文

 1997年7月1日制定
 2012年2月3日改訂(11)

 一般社団法人 情報処理学会
 論文誌ジャーナル編集委員会

本会の研究報告会、本会主催のシンポジウム、ワークショップ、本会が主催ないし共催する国際会議、および支部主催シンポジウムにおいて発表された論文の中で、主催者またはプログラム委員長が、優秀な論文と認定した論文を「推薦論文」と呼ぶ。英語名はRecommended Paperとする。

推薦論文制度-論文誌ジャーナル運用規定

(1) 推薦論文の種類

推薦論文には、イベントの論文からの推薦、研究会からの年間推薦、各支部からの年間推薦の3種類がある。イベントの論文とは、本会主催の研究報告会、シンポジウム、ワークショップ、本会が主催ないし共催する国際会議で出版された6ページ以上の発表されたオリジナル論文と定義する。

(2) イベントからの推薦論文

主催者またはプログラム委員長は、各イベントの論文の総数のうち、10%以内を推薦論文として論文誌ジャーナル/JIP編集委員会に指定様式を使って推薦することができる。推薦者は下記の通りとする。

- 研究発表会: 研究会主査
- シンポジウム: プログラム委員長または主催する研究会の主査
- ワークショップ: プログラム委員長または主催する研究会の主査
- 国際会議: 本会会員のプログラム委員長または主催・共催する本会研究会の主査
- 支部主催シンポジウム: プログラム委員長または主催する支部の支部長

推薦書の提出締切は、各イベントの終了後6ヵ月以内とする。推薦論文の投稿締切は、推薦論文として承認された日から6ヵ月以内とする。

(3) 研究会からの年間推薦論文

研究会主査は、論文誌ジャーナル/JIP編集委員会が割り振った推薦期間に、過去1年間の研究会が主催したイベントの論文の中から、日本語論文を2編以内および英語論文を2編以内で推薦論文として推薦できる。推薦論文の投稿締切は、推薦論文として承認された日から6ヵ月以内とする。

(4) 各支部から年間推薦論文

各支部長は、論文誌ジャーナル/JIP編集委員会が割り振った推薦期間に、過去1年間の支部が主催するイベントの論文の中から、日本語を2編以内および英語論文を2編以内で推薦論文として推薦できる。なお、支部大会の2ページの論文を基としてよい。推薦論文の投稿締め切りは、推薦論文として承認された日から6ヵ月以内とする。

(5) 共同推薦者

イベントの推薦論文、研究会からの年間推薦論文および各支部からの年間推薦論文の推薦者は、共同推薦者として研究会幹事あるいは、論文誌ジャーナル/JIP編集委員を1名のみ推薦書に特別編集委員の候補として入れることができる。

(6) 推薦論文の特別編集委員

論文誌ジャーナル/JIP編集委員会は、推薦論文の審査を担当する特別編集委員を委嘱する。

6-1 論文誌編集委員会は、イベントからの推薦論文では、主催する研究会主査、プログラム委員長あるいは共同推薦者が特別編集委員として委嘱する。

6-2 研究会からの年間推薦論文には、研究会主査あるいは共同推薦者が、特別編集委員として委嘱される。


6-3 各支部からの年間推薦論文には、支部長あるいは共同推薦者が特別編集委員として委嘱される。

6-4 担当する特別編集委員は、一般投稿と同様のプロセスに従い、推薦論文を査読する。また、担当する推薦論文が判定される論文誌ジャーナル/JIP編集委員会小委員会に可能な限り参加し、論文の採否判定に関する説明を行うものとする。


(7) 推薦論文の脚注

推薦論文が採録になった場合、推薦論文を掲載する際、論文タイトルの脚注に下記の推薦文を添える。

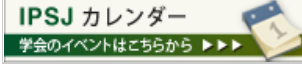
[提言/プレスリリース](#)
[学会誌「情報処理」](#)
[論文誌](#)
[論文誌ジャーナル](#)
[トランザクション](#)
[デジタルプラクティス](#)
[Journal of Information Processing \(JIP\)](#)
[IMT](#)
[IPSJ Digital Courier \(IPSJ-DC\)](#)
[イベント](#)
[ITフォーラム](#)
[研究会](#)
[会員サービス](#)
[電子図書館](#)
[図書販売](#)
[教育・人材育成](#)
[学会について](#)
[情報規格調査会](#)




 出版倫理と不正行為に関する声明
Publication Ethics and Publication Misconduct



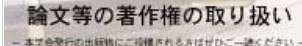
 論文査読管理システム (PRMS)
論文誌ジャーナルおよびJIPへの投稿はこちらから



 IPSJ カレンダー
学会のイベントはこちらから



 入会する
入会申込み方法と会員サービスのご案内など



 論文等の著作権の取り扱い
本学会発行の出版物にご投稿される方はぜひご確認ください

編集規程

[論文誌編集規程](#)
[論文誌ジャーナル編集細則](#)
[論文誌ジャーナル運用規程](#)
[情報処理学会関連の英文表記および略記](#)
[定期刊行物の省略記法](#)
[データ作成に関する注意点](#)



研究部門へのお問い合わせ
 論文誌ジャーナル/JIP 担当
 E-mail: editt@ipsj.or.jp
 Tel. 03-3518-8372

7-1 「本論文の内容は〇〇年〇月の〇〇〇〇研究会／シンポジウム／ワークショップ／国際会議／支部主催シンポジウムにて報告され、同研究会主査／支部長／プログラム委員長により情報処理学会論文誌ジャーナルへの掲載が推薦された論文である」。

7-2 「本論文の内容は〇〇年〇月の〇〇〇〇研究会／シンポジウム／ワークショップにて報告され、同研究会主査により情報処理学会論文誌ジャーナルへの掲載が推薦された論文である」。

7-3 「本論文の内容は〇〇年〇月の支部研究会／支部主催シンポジウムにて報告され、支部長により情報処理学会論文誌ジャーナルへの掲載が推薦された論文である」。

(8) 推薦書様式

推薦論文推薦書は、指定の様式に記入して論文誌ジャーナル/JIP編集委員会に提出する。

(9) 推薦論文の不採録

推薦論文が不採録になった場合、その時点で推薦論文の処理は終了する。

年間推薦論文の推薦期間について

2012年2月3日
論文誌ジャーナル編集委員会

以下を推薦論文の期間として定める。また、推薦論文の推薦書は、論文の発表後のみに提出できる。

1. 研究会からの年間推薦論文	
A 推薦対象となる論文:	4月1日から翌年の3月31日に発表された論文
B 推薦できる期間:	6月1日から翌年の5月31日までに申請

例: 2011年度の場合

A: 2011年4月1日から2012年3月31日の間

B: 2011年6月1日から2012年5月31日

2. 各支部から年間推薦論文	
A 推薦対象となる論文:	4月1日から翌年の3月31日に発表された論文
B 推薦できる期間:	6月1日から翌年の5月31日までに申請

例: 2011年度の場合

A: 2011年4月1日から2012年3月31日の間

B: 2011年6月1日から2012年5月31日

推薦論文推薦書

Wordファイル (32KB)

[ダウンロード](#)

[論文誌ジャーナルへ戻る](#)

[このページの先頭へ](#)

[セキュリティについて](#)

[プライバシーポリシー](#)

[倫理綱領](#)

[著作権について](#)

[広告のお申し込み](#)

[事務局所在地](#)

All Rights Reserved, Copyright (C) Information Processing Society of Japan

東北支部規定 01 号

平成~~9~~24年~~4~~5月~~2~~3~~1~~日改正施行

情報処理学会東北支部表彰規定

第1条 支部規約第3条（5）項に基づく関係事業として、業績ある者の表彰は、この規定により行う。

第2条 表彰の種類は、次のとおりとする。

1. 奨励賞
2. その他、支部で特に認めた賞

（奨励賞）

第3条 奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

第4条 奨励賞を受ける者は、支部主催の電気関係学会東北支部連合大会（以下、支部連合大会と呼ぶ）および研究会に発表した者で、次の各号に該当するものから選考する。

- イ. 原則として本学会東北支部会員であること。（手続き中のものを含む）
- ロ. 講演の時期において大学の学部卒業後10年未満の者 またはこれと同等と認められる者であること。
- ハ. 講演者として登録し、かつ講演を全て行った者であること。
- ニ. 本奨励賞および類似の学会賞を受けたことのない者であること。
- ホ. 対象となる発表は、表彰の時期の前年~~1~~4月から~~当該年の~~3~~1~~2月までに 行われたものとする。

第5条 第4条の選考は、該当支部連合大会および研究会終了後速やかに行う。

第6条 奨励賞は、原則として支部連合大会から3編以内、研究会から2編以内とする。

第7条 奨励賞は賞状および賞金とする。賞金は、1名につき20,000円とする。

（選考委員会）

第8条 選考委員長は原則として支部長が当たる。

第9条 選考委員会の委員は、委員長が支部役員を含めた正会員の中から若干名任命する。

（表彰）

第10条 表彰の受領者は、選考委員長の報告に基づき支部役員会で決定する。

第11条 支部長は、選考委員会の推薦により、支部総会において支部奨励賞を贈呈する。

(雑則)

第 12 条 この規定に定めるもののほか，必要な事項は別に定める。

付則

この規定は，平成 3 年 11 月 1 日から施行する。

この規定は，平成 9 年 4 月 23 日から改正施行する。

この規程は，平成 24 年 5 月 1 日から改正施行する。

平成24年度 電気関係学会東北支部連合大会 実施計画

1 実施計画の概要

- 主催学会 : 電気学会, 電子情報通信学会, 照明学会, 日本音響学会
映像情報メディア学会, 情報処理学会, 電気設備学会 (各東北支部)
IEEE Sendai Section
- 幹事学会 : 電子情報通信学会東北支部
- 大会期日 : 平成24年8月30日(木) ~ 31日(金)
- 大会会場 : 秋田県立大学本荘キャンパス
(〒015-0055 秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口84-4)

2 大会日程

日程	月日	内容		
第1日目	8月30日(木)	午前	一般講演	展示会
		午後	一般講演 特別講演 (夜:懇親会)	
第2日目	8月31日(金)	午前	一般講演	展示会
		午後	一般講演	

3 一般講演

- 日時 : 8月30日(木) 9:00 ~ 15:00
8月31日(金) 9:00 ~ 17:00
- 講演内容 : 各専門分野で最近行った研究の発表, 各専門分野で最近行った工事報告, 現場実験報告, 新製品の紹介等

4 特別講演

- 日時 : 8月30日(木) 15:30 ~ 17:00
- 場所 : 秋田県立大学本荘キャンパス 共通施設棟 AVホール
- 講師 : 未定
- 演題 : 未定

5 懇親会

日時 : 8月30日(木) 17:30 ~ 19:30(予定)
場所 : ホテルアイリス(秋田県由利本荘市肴町5番地)
会費 : 一般:5,000円,学生:3,000円(予定),実行委員:3,000円(予定)

6 展示会(製品カタログ展示)

場所 : 秋田県立大学本荘キャンパス エントランスアトリウム付近

7 現地担当実行委員

現地実行委員長 : 佐藤 宗純
現地実行副委員長) : 穴澤 義久
現地実行委員 : 磯田 陽次、高根 昭一、片岡 康浩、渡邊 貴治、
能勢 敏明、笹森 崇行、小宮山 崇夫、小澤 一文、
戸花 照雄、草苅 良至、山口 博之、安倍 幸治、伊東 良太、
小笠原 正、猿田 和樹、能登谷 淳一、寺田 裕樹、
青山 隆、廣田 千明、松下 慎也、陳 国躍、高山 正和、
長南 安紀、徐 粒、岡本 洋、本間 道則、中村 真輔

第75回全国大会

The 75th National Convention of IPSJ

会期 2013 3.6 Wed ▶ 8 Fri
会場 東北大学 川内キャンパス
(宮城県仙台市青葉区川内27-1)



次回の全国大会

HOME

プログラム

講演申込・原稿送信

聴講参加・論文集事前予約申込

大会スポンサー募集案内

出展募集案内

会場アクセス・案内図

宿泊申込案内

よくある質問



次回の第75回全国大会は、2013年3月6日（水）～8日（金）に東北大学川内キャンパスで開催を予定しております。講演申込受付の開始予定は、2012年9月中旬からの予定です。

順次、本大会Webページに情報を掲載してまいります。

Topics

東北大学 川内キャンパスで開催

開催概要

大会名称：情報処理学会 第75回全国大会

大会会期：2013年3月6日(水)～8日(金)

会場：東北大学 川内キャンパス

(宮城県仙台市青葉区川内27-1)

委員会：第75回全国大会委員会

共催：東北大学大学院情報科学研究科

後援：(予定) 東北大学

講演申込登録，原稿送信方法
に関する問い合わせ

➡ 準備中

上記以外に関する問い合わせ

➡ 情報処理学会 事業部門

Tel. 03-3518-8373

[問い合わせフォーム](#)

大会会期中の連絡先

(大会本部臨時電話)

※通話可能期間：

2013年3月6-8日

Tel：準備中

第75回全国大会

The 75th National Convention of IPSJ

会期 2013 3.6 Wed ▶ 8 Fri
会場 東北大学 川内キャンパス
(宮城県仙台市青葉区川内27-1)



次回の全国大会

HOME

プログラム

講演申込・原稿送信

聴講参加・論文集事前予約申込

大会スポンサー募集案内

出展募集案内

会場アクセス・案内図

宿泊申込案内

よくある質問

講演申込登録, 原稿送信方法
に関する問い合わせ

➡ 準備中

上記以外に関する問い合わせ

➡ 情報処理学会 事業部門

Tel. 03-3518-8373

[問い合わせフォーム](#)

大会会期中の連絡先

(大会本部臨時電話)

※通話可能期間:

2013年3月6-8日

Tel: 準備中

HOME > 第75回全国大会委員会

第75回全国大会委員会

第75回全国大会 組織委員会

委員長	寺中 勝美	NTTソフトウェア
副委員長	橋田 浩一	産業技術総合研究所
委員	石田 亨	京都大学
委員	亀山 充隆	東北大学
委員	河口 信夫	名古屋大学
委員	串田 高幸	日本アイ・ビー・エム
委員	黒橋 禎夫	京都大学
委員	中野 美由紀	東京大学
委員	平田 圭二	公立ほこだて未来大学
委員	山室 雅司	日本電信電話
委員	吉野 松樹	日立製作所
委員	渡辺 尚	静岡大学

第75回全国大会 プログラム委員会

委員長	石田 亨	京都大学
副委員長	木下 哲男	東北大学
委員	新 麗	IIJイノベーションインスティテュート
委員	石原 進	静岡大学
委員	岡谷 貴之	東北大学
委員	亀山 充隆	東北大学
委員	河口 信夫	名古屋大学
委員	栗原 恒弥	日立製作所
委員	神成 淳司	慶應義塾大学
委員	菅沼 拓夫	東北大学
委員	鈴木 信雄	KDDI研究所
委員	鳥居 秋彦	東京工業大学
委員	中村 大賀	日本アイ・ビーエム
委員	橋田 浩一	産業技術総合研究所
委員	畑山 満則	京都大学
委員	早川 栄一	拓殖大学
委員	三輪 忍	東京大学
委員	吉濱 佐知子	日本アイ・ビーエム
委員	和田 康孝	電気通信大学

第75回全国大会 実行委員会

委員長	亀山 充隆	東北大学
副委員長	小林 広明	東北大学
幹事	木下 哲男	東北大学
幹事	菅沼 拓夫	東北大学
幹事	滝沢 寛之	東北大学
委員	青木 輝勝	東北大学
委員	阿部 亨	東北大学
委員	伊藤 康一	東北大学
委員	伊藤 健洋	東北大学
委員	内澤 啓	東北大学
委員	岡崎 直観	東北大学
委員	北形 元	東北大学
委員	酒井 正夫	東北大学
委員	佐野 健太郎	東北大学
委員	塩入 諭	東北大学
委員	篠原 歩	東北大学
委員	住井 英二郎	東北大学
委員	富樫 敦	宮城大学
委員	本間 尚文	東北大学
委員	水木 敬明	東北大学
委員	三石 大	東北大学
委員	和泉 勇治	東北大学

第75回全国大会 プログラム編成WG

委員長 石田 亨 京都大学
今後調整

2011 年度 事業報告（ほぼ最終案）

1. 概況：重点活動

東日本大震災後の混乱や欧州債務危機、歴史的円高による経済状況の悪化などにより学会運営への影響が懸念されたが、シンポジウムや連続セミナーでは開催地や時期の変更で対応した。また、震災復興支援関連では各種イベントにおける特別講演、会誌・論文誌での特集掲載など多くの学会員の活動に支えられ、結果的には会員減少傾向に改善がみられた（'07年度 685名減 '11年度 282名減）。さらに全国大会でも50周年記念大会に次ぐ発表件数を記録するなど明るい兆しが見える年度となった。

1.1 社会環境の変化への新たな取り組み

(1) 東日本大震災復興支援の推進（ 項参照）

震災復興支援運営委員会を設け震災復興支援を推進した。

若手会員を対象とした震災復興デザインコンテストの実施（ 詳細は付録「表彰」参照）

震災後の救援・復興支援活動の取組みに対するソフトウエアジャパンアワードの贈呈（ 詳細は付録「表彰」参照）

刊行物での関連特集等の企画（ 詳細は7項、8項参照）

各種イベントにおける震災復興支援への対応（ 詳細は4項、6項参照）

(2) 情報科学技術開発に関する政策提言の検討推進（ 項参照）

政策提言 WG を設け、情報科学技術開発に関する国の施策などについて提言すべき時に速やかに対応できるような体制を整えた。

(3) 教育ビジョン 2011 の取り纏めと公表（ 項参照）

教育ビジョン 2011「誰もが情報技術に主体的に向き合う社会の実現をめざして」を2011年12月に公表するとともに、文部科学省など関係機関に提出した。

(4) デジタルコンテンツの取扱い・オンライン刊行物による新たなサービスの検討推進（ 項参照）

マルチメディアコンテンツを含む論文（pdfでの扱い）、情報学広場の本格運用による電子図書館の統合、購読員・法人会員向けCDの廃止とオンライン化等について実施に向けた検討を行った。

1.2 実務家・ITプロフェッショナル向け活動の強化

(1) 活動強化のための運営体制の見直し・改善（ 項参照）

実務家・ITプロフェッショナル向け活動に関する運営体制を見直し、2012年度から現行組織を改組するとともに、新たに活動全体を統括する組織を設置して活動を強化するよう改善する。

(2) 論文誌「デジタルプラクティス」の特集企画の充実、安定刊行のための体制整備（ 項参照）

論文誌「デジタルプラクティス」について、特集企画の充実、査読委員の確保など、安定刊行のための体制整備等を行った。

(3) 高度 IT 人材向けの資格認証制度の実現に向けた制度設計 (項参照)

制度設計WGでの制度試案の作成と並行して,制度検討WGで試行に向けたビジネスモデルや運用などの検討を実施した。会誌での高度IT人材特集や論文誌「デジタルプラクティス」の特集を通じて制度への幅広い認知と意見収集を図った。

1.3 学会誌の充実に対する取り組み (項参照)

読者に関心の高い震災関連企画に重点的に取り組むとともに,夏休み・冬休み特集など季節感のある誌面,著名人による巻頭コラムや連載など「読まれる学会誌」を目指した。

1.4 中長期計画を踏まえた学会運営体制の充実・改善 (項参照)

(1) 理事担務の見直し・改善

実務家・ITプロフェッショナル向け活動の強化を図るため,技術応用担当理事を新設した。国際活動については,研究会活動のグローバル化を重点的に推進するため調査研究担当理事の担務とし,国際担当は廃止する。新たな役員選挙区分は2013年度役員選挙から適用する。

(2) 中長期計画の具体化と推進 中長期計画の詳細は p. 参照

学会の魅力・価値の向上を目指して中長期計画を策定し,計画に基づき諸施策を推進した。

(3) 諸活動の評価のためのデータ収集の継続

第三者組織であるアドバイザリーボードの助言を得て,関連データの収集・分析を継続し,諸活動の評価・改善に努めた。

2012 年度 事業計画（ほぼ最終案）

下線部は3月理事会提出内容からの主な修正

1. 概況：重点活動

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から約1年が経過し、各方面で復興に向けた取り組みが進んでいる。また、災害発生時および復旧の過程で起こったことの検証とそれを踏まえた今後の社会のあり方の議論も進められている。情報処理技術は、その検証作業においてさまざまな形で活用されているが、情報処理技術自身についても、その果たした役割の評価と課題の分析を行い、さらなるレベルアップが必要とされている。その活動を本学会がリードし、人と社会の平和と幸福のためのより良い情報環境の確立を目指す。

グローバル化、少子高齢化が進む中で、情報処理技術への期待はますます大きくなるとともに、新たなパラダイムやそれを支える基盤技術の確立が急務である。そのために、調査研究活動の一層の活性化、実務家向け事業の活性化、学会運営体制の見直しを行い、学会価値の向上と会員向けサービスの充実を図り、会員ベースの拡大を図る。

1.1 グローバル化：インパクトファクタ取得対応および海外学協会との連携推進（8.1 項(2)、10 項参照）

英文論文誌 JIP のインパクトファクタ取得に向けて、安定した季刊発行体制の整備と、さらに月刊化に向けた施策の検討を行う。

海外学協会との連携を推進し、これにより研究会活動のグローバル化をさらに推進する。

1.2 実務家・IT プロフェッショナル向け活動の強化（5.3 項、6.2 項、6.3 項参照）

IT フォーラム、ソフトウェアジャパン、デジタルプラクティス、連続セミナー・短期セミナーなど、各種の実務家向け活動を通じて、IT プロフェッショナルコミュニティの構築を図り、会員増、収入増に繋げていく。

高度 IT 人材資格に関しては、情報処理推進機構（IPA）とも協力して試行開始に向けた具体的な準備を行う。

情報サービス産業協会（JISA）、日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）などの実務家・IT プロフェッショナルを対象とする団体との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進して、会員増に繋げる。

1.3 学会運営体制の充実（9.1 項（2）、12.2 項参照）

実務家・IT プロフェッショナル向け活動関連委員会の改組、情報規格調査会との連絡会議の設置のほか、理事の担務を見直して運営体制の充実改善に取り組む。

中長期計画の具体化と推進を図るとともに、継続的な見直しを行う。

アドバイザリボードからの提言を適宜諸事業へ反映していく。

1.4 社会への提言（5.4 項(2)、12.1 項(4)参照）

情報処理技術に関する中心的学会として、国の政策・方針に関する提言、情報セキュリティ、情報教育など広く国民に影響の大きい事象に関して、積極的に提言を行う。

1.5 会員サービスおよび広報の充実（12.1 項，12.2 項参照）

企画政策委員会において、会員サービスの向上および広報宣伝の充実のための施策を企画し、会員の目線で、魅力ある学会作りを目指す。具体的には、今年度は次を実施する。

各種メディアを活用した積極的な広報活動推進

事業評価データの継続的な収集と分析・改善

電子図書館を中心とするオンライン刊行物を利用した新しいビジネスモデルの推進